

国立天文台天文情報センター 長山省吾

* 65cm 屈折望遠鏡用小型プリズム分光器発見

国立天文台敷地の北西部の三鷹国際報時所跡地にある基線尺倉庫の存在をご存じだろうか？この建物は、もともとは文部省 測地学委員会の菱形基線の測定に使われた基線尺を保管する倉庫として使われていた。年代ははっきりしないが、測地学委員会から事業を引き継いだ国土地理院による菱形基線の測定が、基線尺による測定から、光波測距儀による測定になった頃？測定に使われなくなった基線尺は基線尺倉庫から引き上げられた。

その後、天文台の倉庫として使われ(名称は基線尺倉庫のまま)、現在では保管品とともに忘れられつつある建物である。

2009年8月某日アーカイブ室では何度目かの倉庫内の探索を行い、興味深い観測装置を発見したので報告する。

写真1にその観測装置を示す。スリット-コリメータレンズ-プリズム-カメラレンズ-乾板という構成(写真2)のシンプルなプリズム分光器である。



写真1 発見された分光器

フランジの形状から 65cm 屈折望遠鏡の分光器と思われる。スリット部を写真3に示す。スリット幅はダイヤルで可変させ(写真4)、スリット長は三段階に可変できる構造(写真5)となっている。また、ガイド用のファインダー(写真3の矢印)がついている。写真6に示す箇所にレンズ系とプリズムが格納されている。古い装置の光学部品は、他の装置に流用されることがしばしばあるが、レンズ、プリズムともに残されている。 写真2





写真3 スリット部とファインダー



写真4 スリット幅を決める機構



写真5 スリット長を3段階に決める機構

東京天文台報にはこの分光器に関する報告は見当たらなかったが、東京天文台百年史に65cm 屈折望遠鏡の観測装置について、この分光器について書かれたと思われる記述があることから、1950年半ばに作られた「65cm 屈折望遠鏡用小型プリズム分光器」と推察するに至った。ただし、他にこの分光器について書かれた文献がないことから、誰が何時製作したか、どのような観測をしたのかなど詳細は不明である。この件についてご存じの方は、アーカイブ室までご一報頂ければ幸いです。基線尺倉庫にはまだまだ眠っているお宝があるものと思われる。続報を期待していただきたい。